

オーストラリア・モナシュ大学語学研修レポート

去る3月4日(日)～3月24日(土)までの21日間にわたり、薬学部5名、看護学科3名、臨床福祉学科1名、臨床心理学科2名、言語聴覚療法学科1名、計12名の学生と教員2名が、オーストラリア・モナシュ大学の語学研修に参加しました。研修を体験してきた学生たちの研修レポートをお届けします。

「オーストラリアでの三週間」

●薬学部 薬学科 4年 大前 美乃理

海外へ出たことがない私にとって、今回の語学研修は初めての海外でした。参加の決定にあたって、わからないことも多く、とても不安でした。しかし就職してからでは長期の旅行はなかなか難しくなると思い、参加を決意しました。

オーストラリアでは約3週間ホームステイをしていました。ホームステイでは、ホテルなどで一人で暮らすということとは違い、ホストファミリーとコミュニケーションをとることが必要です。日常生活における会話を日本語から英語にシフトすることで、より自然に英語に慣れ親しむことができたかと思えます。現地にいる間はモナシュ大学に通っていました。大学では、語学だけでなく、オーストラリアの文化や自然・医療などについて学びました。授業も適切な速度・難易度で進められ、積極的に参加できてよかったです。また、フィールドワークとして現地の動物園に行ったり、医療機関を見学させて頂いたり、とても貴重な体験ができたと思います。放課後や休日には友達と観光地や飲食店などに行き、日本との違いを楽しむことができました。

この語学研修に参加することで、語学のみならず、文化の違いやオーストラリアの風土について学ぶことができました。また、これをきっかけに普段関わることのなかった他の学部の人達とも友達になることができました。語学研修への参加は自分にとってとても良い刺激となり、良い経験となったと思います。

「Thanks a lot!」

●薬学部 薬学科 2年 井澤 直子

今回のオーストラリア語学研修に行くことができ、全ての人に感謝しています。初めは行くかずっと迷ってしまいました。お金がかかるし英会話を習うだけで十分だと思ってました。しかし、やはり自分の英語力を知りたくて締切りぎりぎりだったところを大学の方の協力で参加できることになりました。ひとりで行ったのでとても不安でしたが、新しい友達ができ、先輩とも仲良くくれたことは自分にとってプラスになりました。

オーストラリアのホストマザーは私の祖母よりも年上の元氣なおばあちゃんでした。同じ家には中国の留学生もいて、彼女と毎日話すのがとても楽しかったです。学校での授業は医療系のことが多かったため、医療用語をあまり知らない私にとっては少し難しかったです。英語と同時に医療のこともっと学ばなければいけないと感じました。病院訪問などでは外国と日本の違いをたくさん発見できました。外国でも働けるようになりたいと思いました。

放課後はほぼ毎日観光ができるのもとても魅力的でした。自分たちだけで現地を巡ることで英語を話す機会に恵まれ、またひとりでも交通機関を使えるという自信にもなりました。自分の英語力がわかったことでもっと話せるようになりたいと思ったり、外国への興味もさらに深まりました。

今回の経験を通して、自分のできる事とできない事がはっきりしたので、自分に必要なことからアクティブに挑戦していこうと思います。

「オーストラリア 語学研修に参加して」

●薬学部 薬学科 4年 中村 書子

3週間なんてあっという間に過ぎるのだから、と覚悟して参加した語学研修でしたが、毎日充実していて、私の想像以上の速さで時間は過ぎて行きました。

モナシュ大学での授業では、病名を英語で学んだり、オーストラリアの医療システムについて勉強しました。また、教室内での勉強だけではなく、病院や老人ホーム、動物保護施設にも訪問し、スタッフの方から話を伺うことができました。

授業以外では、放課後に友達とメルボルン市内を散策したり、週末は観光ツアーを利用して遠出したりしました。

その充実した3週間の中でも、私が特に心に残っているのがホストファミリーとの時間です。ホストマザーはとても温かい方で、「今日はどんなことがあったの?こっちは来て話そう!」とリビングに呼びだしてくれたので、私も積極的に話すことができました。ホストファミリーと過ごす時間は本当に居心地がよくて、帰国時は寂しさでいっぱいでした。

語学研修を終え、英語の力が劇的に伸びたとは思いますが、道を尋ねたり、オーダーしたり、完璧な英語でなくてもどうにか粘り強く説明したら理解してくれた、という様な経験をして「完璧でなくてもいいし、失敗してもいいから、とりあえず挑戦してみよう!」という気持ちを持てるようになりました。きっとこの気持ちはこれからの生活で私自身を助けてくれると思います。3週間という短い期間でしたが、得たものはとても多かったです。参加して本当に良かったです!

「オーストラリアでの時間」

●看護福祉学部 臨床福祉学科 2年 早坂 麻衣子

3週間という短い期間ではありましたが、私は多くの経験をすることができました。前々から語学研修に参加したいとは思っていましたが、たくさんの不安を抱えてオーストラリアに行きました。

英語が得意というわけではないので、授業についていけないのかということが一番不安でした。ですが実際授業に参加してみると、先生はとても優しく、分からないことがあれば丁寧に教えてくれましたし、理解できるまで何度も話しかけてくれました。また授業内では英語に関しただけを勉強するのではなく、オーストラリアの文化、歴史、医療制度に関して学ぶことができました。知識を深めたと同時にオーストラリアにもっと関心が沸いた授業だったと思います。

またホームステイも充実したものでした。ホストファミリーは皆いい人たちでいつも話しかけてくれました。ホストファミリーは私を本当の家族のように接してくれたので、直ぐに溶け込むことができました。また休みの日になると、ショッピングモールやプールにも一緒に行き、3連休の時には2泊3日で小旅行にも行きました。

私の英語が通じなかった時は、自分のスキルの無さに少し落ち込みました。でも日が経つにつれて相手に話が伝わってきたので自信が湧いてきました。本当にオーストラリアに行ってよかったです。今はもっと英語を勉強してもう一度オーストラリアに行きたいと思っています。

「オーストラリアで学んだこと」

●心理科学部 臨床心理学科 3年 堤 沙織

オーストラリア語学研修を通して、私は、文化の違い・言語の違いにふれました。たった3週間という短い期間の語学研修。はじめは、本当に勉強になるのか不安を抱きながらも参加することに決めました。

オーストラリアで学ぶことは「語学だけ」だと思っていました。本当に、それは全然違います!どのように話したら伝わるのか、英語の聞き取り、環境の違い、文化の違い、日々の過ごし方など、「同じ人間なのにこんなに違うんだ」と気付かされることばかりで、毎日が刺激的でした。授業自体は、午前中だけで、決して長い授業ではありません。授業の先生は、とても優しく教えてくれて、ついていけないかという心配はまったくありませんでした。

私は、実際に外に出てショッピングの最中に店員さんと話したり、街の人に道を聞いたり、駅員さんと話すと話す、そして、ホストマザーと話すことなど、実際に英語を使う場面でありますが、授業よりも格段に英語の上達につながるかと経験して感じました。日本にいると「日本語が使える」という概念がどうしても抜け出せず、わかっていても日本語をつかってしまいます。実際に海外で学ぶということをもっと多くの人に体験してもらいたいと思います。

この3週間は、素敵な思い出と、たくさんの知識を身につけることができました。一生忘れることのない大事な思い出となりました。

「貴重な人生経験」

●心理科学部 臨床心理学科 3年 植松 大貴

オーストラリアでの3週間は充実した貴重な経験になりました。私にとっての一番良い経験になったのはホームステイでした。3人家族のお家に滞在しました。ホストマザーはとてもいい人で、英語がほとんど話せない私に親身になってコミュニケーションをとってくれました。ホストファミリーは色々なオーストラリアの文化に触れさせてくれました。私が日本に帰る数日前にはホストファミリーがたくさんの友人を呼んで、私の為にパーティをしてくれました。その中には、韓国人や中国人、ハンガリー人の方など様々な国の人がいて、交流することができました。

オーストラリア滞在中、平日はモナシュ大学で様々な事を学びました。授業の一環で、病院や老人ホームを訪問する機会があり、日本との違いを見つけながら学びました。病院や老人ホームに関しては、ホームステイをしながら、医療現場を見ることができた事は大変勉強になりました。休みの日にはたくさんの場所を巡り、世界遺産や、動物園に行き、祭りに参加し、街を探索しました。どれも貴重な体験となりました。

オーストラリアでの3週間は、素晴らしい思い出がたくさん出来ました。私にとって初めての海外での生活はかけがえのないものとなりました。

3週間はあっという間でしたが、今回の経験は私の価値観を良い意味で変えることが出来たと思います。私はこれから進路選択をする時期が来ますが、今回の経験を生かし、進路を決定するにあたり様々な視点から物事を考えて自分の進路を考えたいです。

